

## 2 特別支援教育

### 指導の重点

### 一人一人の教育的ニーズに応じた指導

一人一人の教育的ニーズに応じた指導を充実させるためには、全ての教職員が特別支援教育の目的や意義について十分理解することが不可欠です。障害の状態や特性及び心身の発達の段階等によって児童生徒の学習上又は生活上の困難さは異なります。学習活動を行う場合に生じる児童生徒の困難さの要因を探り、その困難さに応じた指導を工夫するとともに、特別支援学級における特別の教育課程についても、全ての教職員で理解を深め、個々の児童生徒の目標等を共通理解して指導に当たることが重要です。

### 通常の学級における個々の児童生徒の困難さに応じた指導の工夫

各教科等の学習指導要領解説には、個々の児童生徒によって、学習活動を行う場合に生じる困難さが異なることに留意し、困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫することが示されています。授業づくりの際には、各教科等の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえるとともに、児童生徒の困難さによる学習や心理面の負担に配慮することが大切となります。

#### 小学校社会科 困難さの状態に対する指導上の工夫の意図と手立て（例）

地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合には、読み取りやすくするために、地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したりして、掲載されている情報を精選し、視点を明確にするなどの配慮をする。『小学校学習指導要領解説 社会編』p139参照

#### 小学校第3学年 単元名「学校のまわり」（本時7/9）

＜本時のねらい＞ 学校の周りの様子が場所によって違う理由について、調べたことを基に話し合うことを通して、表現することができる。

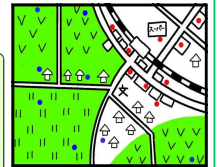


全体への手立てを考えた上で、「教育上特別の支援を必要とする児童生徒への手立て」を考えます。効果のあった手立ては教職員間で共有し、他の教科等においても参考とすることが大切です。

★は教育上特別の支援を必要とする児童への手立て

主な学習活動											
1	調査した結果を記した地図を基に話し合い、学習課題をつくる。										
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>学習課題</b>                      どうして学校の東がわはにぎやかで、西がわはずかなのだろう。                 </div>										
2	予想を立てる。										
	＜児童の発言例＞ ・東側は店が多いからかな ・東側には駅があるからかな ・西側には道路が少ないからかな										
3	キーワードを結び付けて、関係図をつくる。										
	・班で関係図をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <b>学校の東がわ（例）</b>  <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>店が多い</td> <td>えきがある</td> </tr> <tr> <td colspan="2">↓</td> </tr> <tr> <td colspan="2">にぎやか</td> </tr> <tr> <td colspan="2">↑</td> </tr> <tr> <td>公園やせつがある</td> <td>道が広い</td> </tr> </table> </div>	店が多い	えきがある	↓		にぎやか		↑		公園やせつがある	道が広い
店が多い	えきがある										
↓											
にぎやか											
↑											
公園やせつがある	道が広い										
4	関係図を基にして話し合う。										
	・班でつくった関係図を使って発表し、全体の場で話し合う。										
5	まとめを書く。										
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>まとめ</b>                      学校の東がわは、えきがあり、たてももの多いので人があつまるからにぎやかです。西がわは家やはたけが多く、車通りも少ないのではずかです。                 </div>										

・前時までに作成した、賑やかな場所には赤いシールを、静かな場所には青いシールを貼った地図を黒板に掲示しておく。



どうして学校の東側は賑やかで、西側は静かなのでしょうか。黒板の地図を見ながら、予想を立ててみましょう。ICT端末にある地図を見てもよいですよ。

★地図を黒板に掲示するとともに手元のICT端末でも確認できるようにし、自分で見付けやすい方法を選べるようにします。

大きい地図だな。どこを見ればよいか分からないな。どう予想を立てればよいのかな。



はじめに赤のシールが多い、賑やかな学校の東側を見て考えましょう。

★ICT端末の画面に東側だけ拡大して表示するよう指示し、視覚情報を精選します。

AスーパーマーケットとBドラッグストアがある。C駅もあるな。



東側は店が多いから賑やかなのかな。駅があるからかな。

★困っている児童に対しては、建物や道路などを見付けられるための視点が書かれたヒントカードを渡します。

次は青のシールが多い、静かな、学校の西側を見てください。

東側と同じ方法で考えればいいんだな。よし、やってみよう。



西側が静かなのは畑が多いからかな。東側に比べると、店が少ないな。



困難さの状態に合わせた手立てを講じるのが大切です。また、個別の指導計画を作成して必要な配慮を記載し、翌年度の学級担任等に引き継ぐことも大切です。

## 通常の学級と特別支援学級の交流及び共同学習の推進

小・中学校学習指導要領には、交流及び共同学習として、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が、活動を共にする機会を積極的に設けるよう示されています。交流及び共同学習には、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があり、この両方の側面を一体と捉え、推進していく必要があります。

また、交流及び共同学習を推進することは、障害のある児童生徒の自立と社会参加を促進するとともに、障害のない児童生徒にとっても社会を構成する様々な人々と共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ機会となります。

### 一人一人の教育的ニーズに応じた交流及び共同学習

通常の学級の児童生徒と特別支援学級の児童生徒との交流及び共同学習は、日常の学校生活の様々な活動場面で可能ですが、ねらいの達成に向けた効果的な活動の設定や、校内の協力体制の構築が不可欠です。交流学級での教科等の学習においては、特別支援学級の児童生徒も学習内容を理解し、学習活動に参加している実感や達成感をもちながら、充実した時間を過ごしているかどうか重要です。そのことを踏まえ、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた交流及び共同学習の教科等や内容を検討していく必要があります。

#### 【交流及び共同学習の実施に当たっての役割分担と検討事項（例）】

2 月	<p><b>特別支援学級担任と保護者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別の支援計画、個別の指導計画の評価とともに、次年度の学習について保護者に説明し、身に付けさせたい力、交流及び共同学習を希望する教科等についての聞き取りを行う。</li> </ul> <p><b>特別支援学級担任と交流学級担任</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科等の学習の様子について情報交換をし、次年度、交流学級で学習することが効果的な教科等について検討する。</li> </ul>
3 月	<p><b>特別支援学級担任と交流学級担任、特別支援教育コーディネーター</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交流学級で学習する時間、特別支援学級の全員が揃って学習する時間、個別で学習する時間などについて検討する。</li> <li>それぞれの児童生徒が、交流及び共同学習を行う教科等とその内容や方法、目標を決定し、時間割を編成する。</li> <li>特別支援学級の実情を考慮し、教務主任等と全校の時間割を検討する。</li> </ul>
4 月 以降	<p><b>特別支援学級担任と交流学級担任、特別支援教育コーディネーター</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の実態や教科等の特性により、通年にわたって交流学級で学習を行っていくことが困難な場合には、単元や題材によって学習の場を変えて行ったり、交流学級での学習活動に向けた補充学習を特別支援学級で行ったりするなど、学習状況を見ながら柔軟に対応する。</li> </ul>

次年度の各教科等の授業内容を、児童生徒本人にも説明し、交流場面や方法について検討します。

特別支援学級と交流学級の担任は、次年度の個別の支援計画、個別の指導計画の作成を通し、交流学級で行う教科等のねらいや支援の方法（合理的配慮）を確認することが大切です。

交流学級での学習が、特別支援学級の児童生徒の負担過重になっていないか、本人の気持ちを聞いたり、交流学級担任や保護者、教科担当等で学習状況の情報交換を日常的に行ったりすることが大切です。

#### 【交流及び共同学習の実施に当たっての留意点】

特別支援学級には、多様な実態の児童生徒が複数学年にわたり在籍している状況もあり、担任だけでは個のニーズに応じた教育が難しい場合があります。交流及び共同学習を含む教育課程の編成や実施に当たっては、複数の教員で対応したり、指導形態を工夫したりするなどして校内の協力体制を整え、計画的・組織的に進める必要があります。

交流及び共同学習の方法	留意事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の指導計画に基づき、一人一人の障害の状況等に応じた配慮や手立てを講じることで、学習のねらいを達成できる教科等を実施する。</li> <li>○教科等によっては、児童生徒の実態等に応じて、興味のある単元、体験や活動を伴う題材など、特定の単元や題材は交流及び共同学習とし、その他の単元や題材は特別支援学級で個別に学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級の児童生徒が、交流学級において学習をする場合、特別支援学級担任と交流学級担任が、児童生徒の障害の状態や指導のねらい等について十分に共通理解し指導に当たる。</li> <li>・実施に当たっては、特別支援学級、交流学級の児童生徒ともに、安心・安全に授業ができる体制を十分に整える。</li> <li>・特別支援学級の児童生徒が交流学級で学習する場合は、原則として特別支援学級担任が同行し、指導に当たる。</li> <li>・在籍児童生徒が複数おり、特別支援学級担任が交流学級における学習に同行ができない場合は、ねらいや支援内容、緊急時の対応について十分に共通理解した上で、他の教員が同行して指導に当たるなどし、適切な支援と評価ができるようにする。</li> <li>・特別支援学級担任と交流学級担任は、特別支援学級と交流学級の双方の児童生徒の教育的ニーズを共通理解し、特別支援学級担任は交流学級に在籍する支援が必要な児童生徒にも、必要に応じて支援を行う。</li> </ul>

集団での学び合いへの参加、個別でじっくり学習する時間の設定など、一人一人の児童生徒のねらいに即した学習形態や学習活動を工夫することが大切です。

